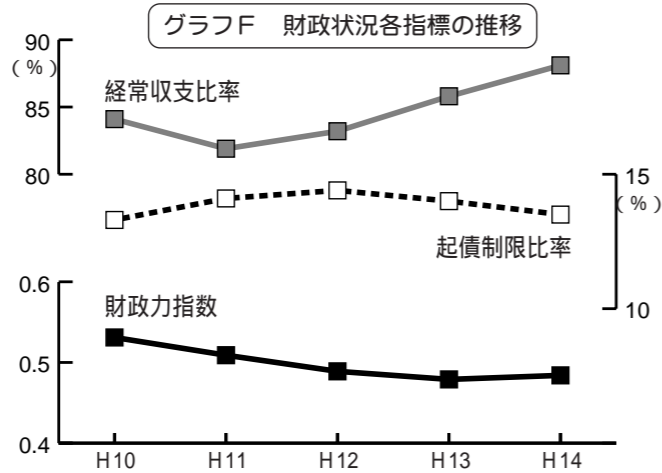


事業別の市債現在高 見込み
(平成15年3月31日現在)

Table with 2 columns: 事業名 (Business Name) and 市債残高 (Municipal Debt Balance). Lists various public works and services with their respective debt amounts.

各指標で見られる市の財政状況は、下のグラフは、市の財政状況

将来の市民にも活用されるので、世代間で経費を公平に負担することに努めます。新津市では、市債を財源とする大きな事業を年次的に実施してきましたが、計画的な投資や繰り上げ償還などに努めた結果、右下のグラフEにあるとおり、平成十四年度以降は一般会計の市債残高が減少しています。これに伴い、市債および公債費は平成十四年度は減少に転じています。



況を表す主要指標の推移を示したものです。まず、市町村の財政力を判断する一般的な指標として財政力指数というものがあ

次に、財政の硬直性を判断する指標として経常収支比率というものがあります。新津市の経常収支比率は八・一％と平成十二年度から増え続けており、自由に使えるお金が少なくなってきています。

簡保資金からも融資を受けています

市の施設などを建設するとき、簡易保険の積立金の一部を国から融資してもらっています。

平成14年度に融資を受けたものは、次のとおりです。

- 簡易生命保険積立金融資
・公共下水道事業.....10億6050万円 (うち4180万円は繰越分)

市有財産の概況

(平成15年3月31日現在、水道財産を除く)



※基金とは、財政運営を円滑に行うための預貯金などのことをいいます。



今までの以上に見えない経済状況において

ものに起債制限比率というものがあります。新津市の場合は前年度とほぼ同じ・四八程度となっています。



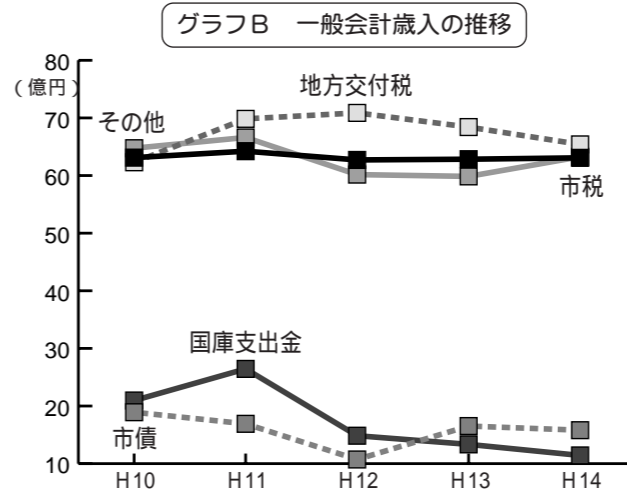
税を含め歳入が今後大幅に増加

税を含め歳入が今後大幅に増加することは望めないため、市財政は極めて厳しい状況になることが予測されます。

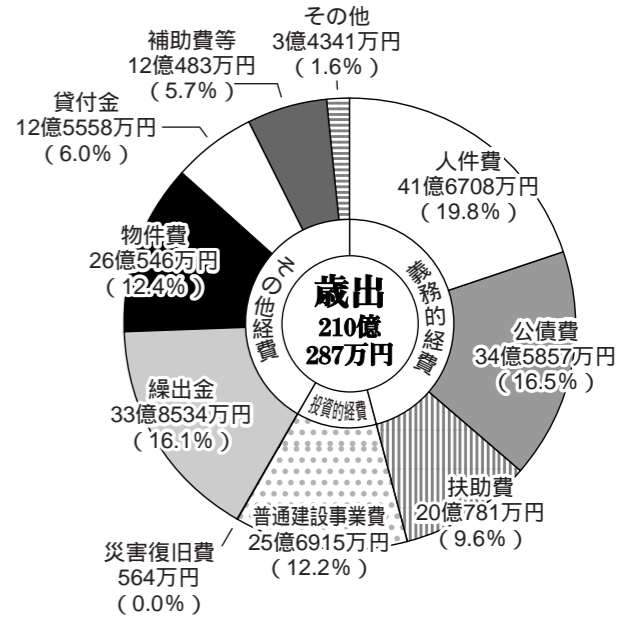


歳入は前年度に比べ約一億円減少

左のグラフBは、一般会計の歳入の推移を表したものです。平成十四年度は市税とその他(繰越金や使用料および手数料など)が増加したほかは減少しています。

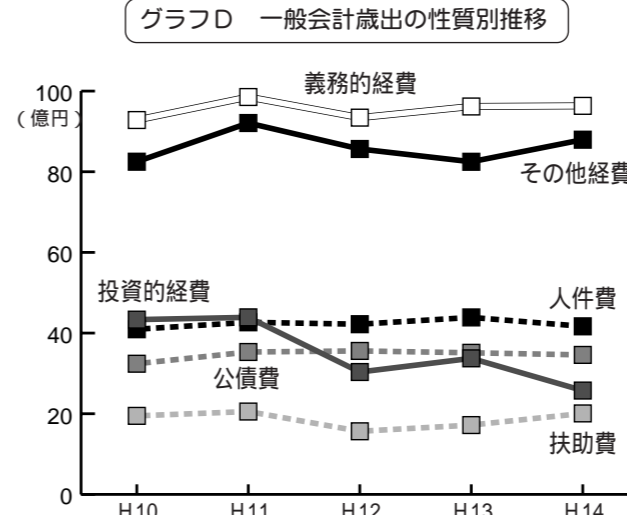


グラフC 一般会計歳出の性質別分類



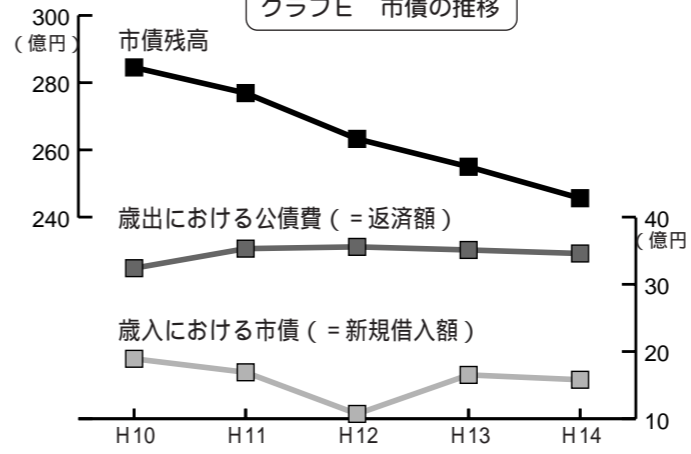
義務的経費の割合は依然として高く

上のグラフCは、平成十四年度の歳出についてその性質別に分類したものです。義務的経費とは、人件費、公債費(市債の償還に充てられる)、扶助費(生活保護など社会保障としての経費)の主に三つで、支出を義務づけられ任意に削減できないという性質を持ちます。



特に義務的経費は高い水準となっており、その内訳(グラフの点線部分)を見ると、前年度では増加した人件費、それ

グラフE 市債の推移



市債に減っている

市債は、道路や施設などの建設に一次的に必要となる多額の費用の負担を長期に分散させて年度間の調整を図ろうとするものです。また、できた施設などに公債費は減少しているものの、扶助費は引き続き増加しています。